「日中生態循環型農業新技術普及会」が開催

――日本と協力プロジェクト合意書を多数調印――

取材　李小亮　姜木金

本紙の取材によると、昨日の午後、市政府が主催、日本農山漁村文化協会、市科技局、市農林局が共催による「2008 年中国鎮江生態循環型農業新技術普及会」が鎮江市で開幕した。日本及び国内研究機関からの生態循環型農業分野の専門家、研究者 20 人余り、さらに当分野の関係者ら、合計数百人が開幕式に出席した。

市共産党委員会副書記の張慶生氏、日本農山漁村文化協会理事の斉藤春夫氏、市政府科技顧問・中国農業科学院副院長の劉旭氏、（江蘇）省科技庁副庁長の曹蘇民氏、省農林庁長の呉沛良氏らが開会の挨拶を述べた。張慶生氏は、まず市共産党委員会、市政府を代表して大会の参加者に歓迎と感謝の意を表した。その後、「生態循環型農業」について、次のように話した。「生態循環型農業」は自然生態のルールと生態経済のルールに従い、集約的な経営管理を行う総合的農業生産システムである。伝統的農業の理念や方式への改革であると同時に、農業の持続可能な発展への重要な道でもある。一方、鎮江市は生態農業の発展において、大きな潜在力をもち、日本との交流・協力の将来性も高い。双方の効果的な努力により、鎮江市の生態循環型農業はきっとより良い、より速い発展を実現し、素晴らしい成果を収めることができると信じている。

開幕式では、中国工程院アカデミー会員・南京林業大学教授の張斉生氏は「バイオマスの高効率・無公害の資源化利用技術と活用」をテーマに講演を行った。また、日本農学会元会長の熊澤喜久雄氏は「日本の環境保全型農業の発展と資源循環」について講演を行った。その後、市の関係部門は日本側と多項目にわたる生態循環型農業新技術の協力に関する協議書を結んだ。そのうち、「農薬節約の果樹病虫害防除技術」、「天敵利用及び病害虫抑制技術」、「乳牛の健康飼養技術」、「堆肥づくり及びキュウリの良品質・高収量栽培技術」、「アイガモゼロ日放飼技術」、「有機農業技術」等の生態循環型農業新技術の導入が含まれている。

開幕式では副市長の曹当凌市が司会をした。開幕式が終了後に、専門家や学者らは有機農業、養殖技術、栽培技術について三つの分科会にわかれて普及会を行った。午前中、参加者は丹徒「天成畜禽養殖場」、鎮江万山紅遍農業園（白兎農業技術モデル園）と丹陽の嘉賢米業有限会社等、わが市にある生態循環型農業を実施している生産現場を視察した。

（鎮江日報 2008 年 7 月 5 日）